

# 給食の中で見る子どもの発達

～発達に応じた給食を提供する為に～

講師 若竹保育園 管理栄養士 荒木千恵 先生

わかば保育園では0才児の離乳食完了～2才までの期間は口の中の発達(噛む力・飲み込む力)にとって重要な時期であることや強く表れる自分で食べたいという要求に十分に答えるため、より細かな配慮が必要な期間と考えています。

そこで、わかば保育園では離乳食から直ぐに幼児食に移るのではなく、間に2段階(おじや食・とろみ食)を取り入れています。それがまわりくどく感じられるかもしれませんが、ここで少し待ってあげることで子どもの機能を育てる期間となると確信しています。今回は、長年に渡り同じ方法を用い、食を通じて子どもたちのより良い発達について考え実践してこられた荒木先生に子どもたちの発達とそれに応じた配慮(おじや食・とろみ食)に関してお話していただきます。



2016

**10/8** 土

**14:00～16:00**

会場 : 有明わかば保育園  
遊戯室

お問合せ

〈電話〉 0954-65-3102

〈メール〉 有明わかば保育園 HP  
のお問合せから

〈有明わかば保育園 HP facebook〉「有明わかば」検索。

～講師紹介～

若竹保育園 (福岡県早良区)

管理栄養士 荒木 千恵 先生

一日の大半を保育園で過ごす子どもたちにとって、保育園での食事は家庭と同じように重要であると考え、その子が自分で食べる喜びを感じれるように発達に合わせ食べやすよう配慮された給食を提供することで子どもたちのより良い育ちに寄り添ってこられました。

※各地の研修会などで講演され、食についての冊子などにも取り組みが掲載されています。